

マダニによる感染症に注意しましょう！

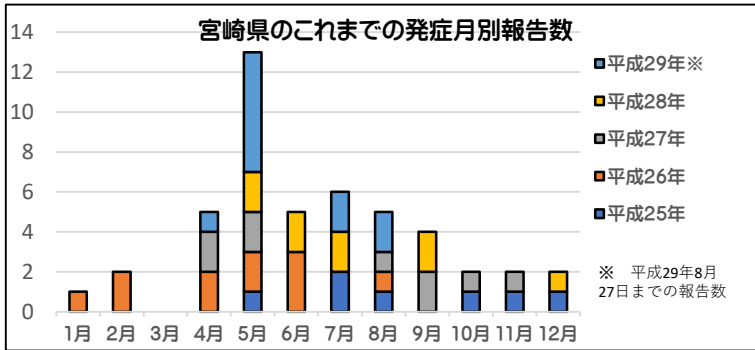
宮崎県内では、マダニに咬まれることによって感染する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の報告数が、全国で最も多くなっています。

重症熱性血小板減少症候群とは？

SFTSウイルスを持ったマダニに咬まれることによって感染する病気です。
 潜伏期間は、6日間から2週間程度です。
 症状は、発熱、消化器症状（食欲不振、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）がみられ、時に頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状も出現します。
 血液検査で、白血球や血小板の減少がみられることも特徴です。

宮崎県の発生状況

◎4月から9月にかけて多く発症しています。

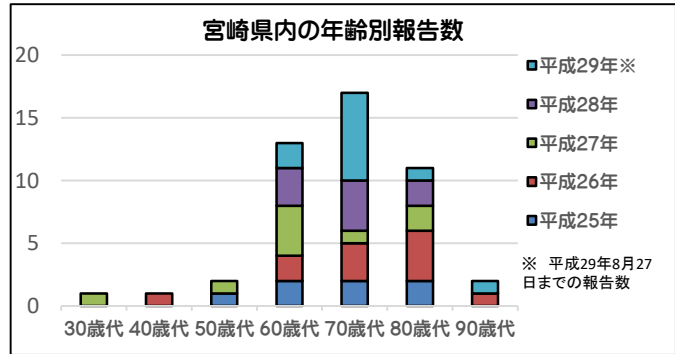


マダニは、春から秋にかけて活動が活発になるので、この時期の発症が多く報告されています。

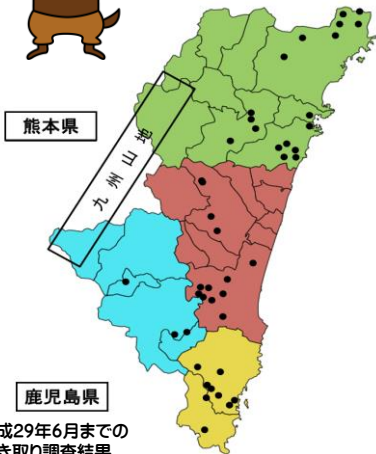


◎60歳代から80歳代で多く報告されています。

宮崎県内では、これまで30歳代から90歳代までの報告がありますが、全国においては、小児の報告もみられています。



◎感染推定地は県北から県南まで幅広くなっています。



県衛生環境研究所において、患者さんへの聞き取り調査をもとに、感染推定地をまとめました。感染は、県北部から県南部まで幅広く起こっています。感染推定地周辺では、身近なこととして、また、その他地域においても感染は起こりうるので、県内全域で注意をお願いします。

患者さんからの聞き取りでは、農作業や山林作業での活動の他、庭仕事や散歩などでも感染が疑われる事例がありました。
 身近な活動においても、感染予防対策は重要です。

